

熊本県立球磨工業高等学校 令和2年度（2020年度）学校評価表

1 学校教育目標	
1	- ものづくりをととした人づくり - 社会的自立に向けた人格の形成 - 次代の産業を担う技と心と志の育成 - 夢を叶えるための資格取得の推進
2	- 部活動をととした人づくり - 心身健康で明るく活気ある学校雰囲気の醸成 - チャレンジ精神を持つ逞しい生徒の育成
3	- 地域から信頼される人づくり - 基本的生活習慣の確立 コミュニケーション力（挨拶、礼節、笑顔）5S：整理、整頓、清掃、清潔、躰 - 地域貢献への積極的な参加 - 自尊感情と球磨工生としてのプライドの育成

2 本年度の重点目標	
1	- 希望進路の実現 - 積極的な進路開拓と進路ガイダンス - 全職員による面接指導の充実
2	- 少子化、多様化への対応 - 地域と連携した学校の特色づくり - 中学校への広報活動の充実 - 小中学生へものづくりの魅力発信
3	- 工業教育の充実 - 学科の専門領域の検討と特色づくり - 資格取得の奨励（ジュニアマイスター取得への挑戦） - 職員の専門性向上と技能の伝承
4	- 学校評価の充実と活用 - 学校評価とその検証
5	- 人材育成 - OJTの充実 - 職員研修の充実
6	- 教育課題への対応 - いじめ防止と人権教育の充実 - 特別支援教育の充実 - 教育相談の充実 - エコスクール活動の推進
7	- 職員の健康管理と不祥事防止 - 働きやすい職場環境づくり - 職員間の連携の強化

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	本年度の重点目標の周知	育友会活動、学校ホームページ（HP）や球磨工メール、学年及び学級通信等の充実	- 学校評価アンケートの重点目標を理解していると回答する保護者を85%以上とする - HPや球磨工メールを積極的に活用し、保護者へ学校行事、部活動情報等の発信する	- HPの積極的な更新 - HPと育友会新聞等の内容を更に充実 - 育友会新聞を学期に1回発行	A	アンケート結果では、89%の保護者が理解していると回答。全体的に学校教育活動の満足度も高い。
	地域連携の強化及び地域貢献	地域行事等への積極的な参加	- 生徒及び職員の地域ボランティアや行事等への積極的な参加 - 参加する生徒の言動や姿をととして本校の育成する生徒像を実感してもらう	- 地域行事等への積極的に参加を呼びかけ、工業各科の生徒作品展示等の協力により本校教育内容を周知 - 学校、同窓会、育友会の連携を密にし、地域に貢献する	A	休校や学校行事連絡等、HPやメールでの情報発信だけでなく、Formsでの調査も取入れ、学校と保護者双方の方向の情報交換体制が整った
	開かれた学校づくりの推進		学校評価アンケートの体育大会や球磨工フェスタ等の行事について知っている回答する保護者を80%以上とする	- 実施内容の見直しや改善等、来校者数増加のための積極的取組 - HP等による学校行事等の情報提供	B	今年度はコロナ禍のため、体育大会、球磨工フェスタ等の行事が中止。代わりにHPで学校の状況や部活動の様子をできる限り発信した。
	業務改善並びに働き方改革推進と学校活性化	業務改善意識の醸成と職員間の連携	- 職員アンケートによる計画的な校務の工夫と超過勤務削減への取組においてできているを70%以上、職場へ向かうことが楽しいが70%以上とする - 職員による業務改善の推進	- 業務の改善意見集約とやり甲斐のある職場環境づくり - 科会及び部会、委員会等で、職員の帰属意識の向上 - 業務改革に向け職員から情報収集し業務改善の検討と提案	B	アンケート結果では、職員の87%が業務改善を意識した校務に取り組んでいる、72%は職場に向かう事が楽しいと回答。しかし、28%の職員への対応が急務である。その要因の特定と改善策を進めるための情報収集に取り組む必要がある。

		部活動の活性化	・部活動参加生徒を昨年同様90%以上とする ・校内の部活動指針を1学期中に策定し、9月から運用する	・活動内容の積極的な情報発信 ・校内の部活動指針を検討、策定し、生徒、保護者へ周知する	B	・今年度は主要な大会やイベントが中止となり、コロナや豪雨災害による休校期間や被害が発生。制限がある中でも部活動に対する生徒や保護者、地域の理解は得られている
		入学希望者定員確保への更なる取組	・職員による中学校訪問や中学生体験入学の内容充実	・学校説明DVD作成 ・7月体験入学 ・10月球磨工オープンスクール ・11月中学校保護者向け説明会	B	・中学校訪問ができず、管内の高校で学校紹介DVDを作成配付。体験入学も2日間分散開催。10月保護者説明会参加者数は142人(昨年127人)を上回った
学力向上	授業の充実	主体的・対話的で深い学びの推進	・職員が相互に授業を参観する校内公開授業週間を年間2回実施する	・レポートにより、主体的・対話的で深い学びに関する指導方法を職員間で共有する	B	・レポートから、取り組みのポイントや工夫点等をまとめて全職員で共有した。職員の研修の一環として継続したい。
	指導力の向上	授業評価アンケートのデータ利用	・アンケートの評価点平均3.5以上(概ね満足)となる項目が全体の90%以上	・アンケート結果を分析することで、クラスごとや科目ごとに傾向を把握し、指導方法改善の方向性を導出する	A	・全9項目中、8項目で評価点平均4.0以上(大変満足)、残り1項目も3.89(概ね満足)であった。次年度は新たな視点も検討したい
	カリキュラム・マネジメント	新学習指導要領におけるカリキュラム編成の研究	・入学時から卒業までにおいて、育てたい資質・能力を学年ごとに段階を定める	・年間2回の検討会を行うことで、育てたい資質・能力を明らかにし、カリキュラム・マネジメントの指標とする	C	・検討会を3回実施し、育てたい資質・能力の議論が深まったが、学年ごとの段階を定めるまで至らず、次年度も継続して議論したい。
キャリア教育(進路指導)	キャリア教育の充実	進路目標の設定と人生観、社会性の育成	・豊かな人間性の育成と主体的な進路選択ができる能力を養う ・卒業後の人生設計を考えさせ、人生観、社会性を養う	・本校の進路指導に合ったキャリアパスポートシステムの構築 ・職員研修による職員の資質の向上 ・全職員による進路指導 ・外部講師等による進路講話 ・就職適性検査や外部模試の結果の活用	A	・今年3年目となるキャリアパスポートへの取り組みを更に進めた。機械科と連携し、ボランティア活動と連動させる等、多角的に分析・考察して生徒への指導について職員研修で共有した。 ・インターンシップでは、長年アメリカで企業勤務経験のある日本人講師を招聘、国際的視点やチャレンジ精神について講話を実施。
	目標進路の達成	就職、進学指導の充実	・1次内定率94%達成 ・進路決定率100%達成 ・公務員志望未決定者0人	・進路ガイダンスの新設 ・進路対策指導の充実	B	・1次内定率は93.7%で目標に僅かに及ばなかったものの、コロナ禍の中健闘した。なお、県内工業系高校10校中2番目に高い内定率である。 ・進路決定100%達成することができた。
	県内就職の促進	県内就職を目指す生徒数の増加	・就職希望者における県内就職内定者23% ・インターンシップにおける就業体験活動内容の充実	・熊本しごとコーディネーターやキャリアサポートスーパーバイザーとの連携強化 ・県内事業所との関係構築強化 ・県内事業所を知る機会の生徒・保護者への提供	A	・県内就職率は26.6%と目標を上回った。これまで積み上げてきた進路指導が奏功していると感じる。 ・インターンシップはコロナ禍で受入事業所数が減少したが、何とか実施することができた。昨年度に続き、キャリアサポートスーパーバイザーを招聘、事業所向け事前説明会を実施した。学校の考えを共有することができたことで、事業所の考え方も良い方向に変化している。 ・コロナ禍の中だが、県の事業を活用して管外インターンシップや工場見学会を実施できた。しかし、第4回県内事業所説明会を中止せざるを得ず、生徒の知る機会を失ったが、別の形で事業所学習の機会を設けたい。

生徒指導	健全な人間育成	基本的生活習慣の確立、礼儀、礼節の徹底、交通ルール、マナーの遵守	・アンケートの評価項目（職員・保護者役員の満足度）80%以上を目指す	・頭髮服装指導、自転車点検、集会等での啓発、列車補導、日常の指導 ・必要に応じて校外での登校指導、下校指導	B	・学校評価アンケートでは、本校の生徒指導の方針について、生徒も保護者80%以上の満足度を示した。
		校内美化に対する自発的態度の育成、生徒会活動の活発化	・アンケートによる職員や保護者の評価項目の基準値を75%とし、基準値以上とする ・学期に1回以上、各種委員会等で話し合いの場を設ける	・生徒指導部による適切な掃除計画、ごみ分別の指導、5Sの教室掲示 ・美化コンクールの実施 ・行事前の美化作業の実施 ・委員会活動の活発化、行事の円滑な運営、達成感のある生徒総会の開催	B	・適切な掃除計画と定期的な美化コンテストにより、校内環境美化活動が徹底された。 ・豪雨災害による地域のボランティア活動に積極的に参加し生徒会活動は活発化したが、委員会活動をより活発化させたい。
	職員間で連携協力できる指導体制の充実	職員の共通理解と生徒指導体制の充実	・アンケートの評価項目で、職員や保護者の客観的評価を80%以上とする	・指導方針の周知、職員間の連携協力の強化、相談しやすい職場づくり ・若手職員への支援、育成 ・職員研修の実施	B	・指導方針を共有することは心掛けてきたが、全職員で統一することは難しい。複雑な問題行動の背景について、どこまで全職員で共有するか検討が必要。
		問題行動の未然防止と適切な対応・指導		・日常における注意喚起、正確な事実確認、事案発生の原因や背景の究明、事後指導を含めた適切な対応 ・言語環境の改善	B	・問題行動への対応等について時代の実情に応じた変化が求められているが、全職員で課題を共有し、意識を統一するために今後努力を要する。
人権教育の推進	職員への啓発活動の強化	「同和」問題への理解を深める取組	・部落差別の現状やこれまでの国や県の解消に向けた取組等の歴史に関する正しい理解	・校外の研修会への参加促進	B	・オンライン研修や拉致問題に関する講演会等に参加できた。職員研修の中で部落差別への理解を深めることができた。
		LGBT問題などの人権問題に対する啓発活動	・相手の立場に立って物事を考えられる生徒の「想像力」の育成	・人権教育推進委員会の活性化 ・月1回程度の「人権教育だより」の発行	B	・人権教育推進委員会を学期に1回程度開催し、生徒の想像力育成のための指導案を作成することができた。 ・人権だよりを5月から12月まで担当者を分担、月1回程度発行し啓発できた。
	学校生活全般における「命を大切にすること」を育む指導	よりよい人間関係を構築するための活動	・人権教育LHRでの人権感覚を高める取組を図る	・授業創造の実践や職員研修で指導力向上を図る ・生徒の日常の中に潜む課題を把握しキャリア教育につなげる	C	・授業創造の実践や指導力向上のための職員研修を実施できず課題として残った。 ・人権教育LHRを通して身近な人権について学ぶことができた。
		「命の大切さ」を学ぶ取組	・自他の生命を大切にしてお互いに理解し合う集団づくりを実践する	・国語科や美術部等と協力し、人権標語や人権作品展へ応募する。 ・人権教育に根ざした授業づくりをする	C	・生徒の意識高揚に向けた取組みとした人権標語は応募したが、人権作品は募集中止であった ・人権教育に根ざした授業実践に向けた取組みができず課題として残った。
いじめの防止等	いじめの未然防止・いじめの早期発見と解消	いじめの未然防止の取組	・情報モラルに関する指導の徹底 ・命を大切にすることの育成を図る啓発活動の実施	・情報モラルに関する講演会や研修会を実施するなど啓発活動に取り組む ・各教科による協力や生徒会、美術部等による呼びかけ、校内放送等での啓発を行う	B	・SNS絡みの問題行動について生徒指導内規を見直し、方針を確立することができた。 ・いじめ防止の標語・ポスターを授業で作成して、生徒への啓発と意識付けを行った。
		いじめの早期発見の取組	・いじめの兆候を見逃さない徹底した調査の実施	・職員による生徒の変化及び状況の把握 ・心のアンケートの実施 ・面談や聞き取り調査 ・家庭訪問の実施 ・「スクールサイン」の有効活用	B	・心のアンケートだけでなく、生徒からの申し出で事案が発覚。生徒との信頼関係により早期発見に至った。 ・スクールサインはあまり有用な手段になっていない。

		いじめの解消の取組	・認知したいじめの完全解消を目指す	・被害者、加害者、周囲の生徒に対する指導や対応を担任及び関係職員と連携して行う ・保護者に対する説明及び指導協力の要請	B	・加害者・被害者共に組織的かつ継続的に指導したが、現在も解消に向けて対応を継続中である。
	いじめ防止対策委員会の機能強化	いじめ防止等の取組の改善	・いじめ防止等の取組に関する評価とそれに基づいた改善の実施	・いじめ防止対策委員会メンバーの精選、取組の計画、実施、評価、改善 ・いじめに対する積極的な認知 ・いじめ解消に向けた取組の評価、改善	B	・毎学期「いじめ防止対策委員会」を開催し、学校内の現状について共有することができた。 ・いじ事案が発生した際には臨時で会議を開き速やかな対応ができた。
地域連携（コミュニティスクールなど）	学校運営協議会をとおして、地域・関係機関との連携を深める	地域や関係機関と連携した本校教育活動における課題解消	・本校教育活動の年度目標の検証と課題 ・総合型コミュニティスクールへの完全移行	・学校運営協議会を年に2回開催し、委員や関係機関と連携して学校における課題点等を確認・改善する ・防災型から総合型への移行に伴い、運営協議会では会の目的と取組みについて委員と関係者との共通理解を図る	B	・今年度、防災型から総合型の学校運営協議会としてスタート。協議会委員に対し学校評議員制度と比較して目的や職務について説明を行い、共通理解を図った。 ・7月豪雨災害発生直後、近隣の方々の避難場所として体育館をはじめ校内を開放、市職員と連携を図った。
		学校防災マニュアルの改善と地域や関係機関と連携した防災活動の実施	・学校防災マニュアルの改善に向けた年間取組みの点検 ・年1回地域や関係機関、保護者等と連携した防災訓練	・関係者に防災訓練への参加、助言等を依頼し、防災活動の質の向上を目指す ・様々な自然災害を想定した実践的防災訓練の実施についての検討	C	・新型コロナ感染症拡大により、関係機関等と連携した防災訓練実施は見送った。一方、実践的な防災訓練として、初めてブラインド型の訓練を実施し、防災力の向上に努めた。
特別支援教育	困り感を抱えている生徒への支援の充実	学校生活を送る上で困り感のある生徒への支援を行う	・中学校から引き継いだ生徒の情報整理を毎年度行う ・課題を持った生徒の見落としがないよう、担任、学年、科との情報共有を毎月1回程度行う	・新入生には入学時アンケートや希望があった場合入学前面談を実施する ・月1回の情報交換会の実施、ケース会議の必要性があれば随時行い、生徒への組織的、計画的な支援を行う ・毎月2回程度スクールカウンセリングを実施し、必要に応じて外部機関も積極的に活用し、支援を検討する	C	・個別の支援計画・指導計画で中学校から引継いだ過年度の生徒情報を整理し、研修で提示する事ができた。 ・月1回程度の生徒情報交換会を実施し、課題を抱える生徒情報を科及び学年で共有できた。しかし、会議設定日時が行事と重なり全員参加できない会もあった。また、情報共有だけではなく、どのような支援をするかまで協議できる会議の在り方を模索していきたい。
			・特性への理解等を含めた特別支援教育に対する全職員の共通理解を図る	・毎学期の生徒理解研修や夏期休業時の職員研修を実施し、特別支援教育の共通した実践を行う	B	・各学期生徒理解研修を実施、職員間で情報を共有するとともに、球磨工シートの活用を改めて周知することが出来た。しかし、本年度は、職員に向けた夏の特別支援研修が豪雨災害対応の研修で止まり十分実施することができず、特別支援教育への理解を十分促すことができなかった。
工業教育の推進	ものづくりの充実	技術系競技大会への積極的参加と活躍	・各種技術系競技大会において、上位入賞を目指す	・これまでの課題や弱点を精査し、指導体制や指導方法の改善を行い、新たな技能・技術を取り入れ、上位入賞を目指す	B	・ものづくりコンテストやアイデアロボット競技大会が中止となる中、マイコンカーラリー熊本県大会に出場。上位入賞は果たせなかったが、4台が完走した。
		各種資格検定試験の積極的受験と高確率の向上	・ジュニアマイスター認定者数150名を目指す ・技能士、第3種電気主任技術者を始めとする国家資格の合格者数300名を目指す	・職員及び生徒の負担を考慮し、効率的な指導計画を立て、計画的な資格取得を実践する ・生徒の進路や技能向上など実態に応じて、上級資格取得を促し合格に向けた対策を行う	A	・コロナ禍で国家試験が中止となる中、ジュニアマイスター認定者数は前期104人認定となり、技能士や電気工事試験等の結果により後期認定者も増える見込みである。取得に向けた取り組みが実践できた。

		職員及び生徒の技術向上	・専門性を高めた実習の実践を行い、確かな知識と技術の向上を図る	・高度熟練技能士や外部講師による、技術指導講習会を計画し、技術向上に研鑽する ・工業部会各分科会での講習会に、若手職員の積極的参加を促し、指導力向上に努める	A	・機械科では、ものづくり講習会に外部講師を招へいし技術向上に努めた。建築科と建設工学科は、人吉市庁舎の建設工事現場を見学し免震構造を用いた特殊な建築物の工事を見学、さらに建設工学科では国土交通省の五木村砂防ダムを見学、最新技術に触れることができた。今年度工業部会関連の行事はほぼ中止となり、校外で専門性向上を図る事はできなかった。
	地域貢献の充実	ものづくりをいかした積極的な地域貢献活動の実践	・地域の催しに積極的に参加し、ものづくりをとおした、技術の提供、貢献品・依頼品製作を行い、本校のものづくり教育をPRする	・地域の諸団体、関係機関との連絡・調整を密に行い、貢献活動に取り組む。 ・部活動や課題研究において、計画的に実践する	A	・機械科は「小学生親子ものづくり教室」を開催、金属製コマづくりを行った。電気科は地域企業や職業訓練校と協力し、「ひとよしまち燈り」の竹灯籠配線作業を行った。建築科は、人吉市立中原小学校の神輿製作、そしてコロナ禍のため交流できなかった幼稚園と支援学校に木育用の製作キットを提供。建設工学科では市役所や小学校と協力してハザードマップを製作する予定。